

福島県PTA連合会会報
第20号_S60.11.15

大会主題

—あすをになう 心豊かでたくましい子どもの育成をめざす PTA活動の推進—

あすをになう心豊かでたくましい子どもの育成をめざすPTA活動の推進を大会主題に、第三十四回福島県PTA研究会が去る十月十一日、十二日、二本松市で開催された。

歴史と教育の町二本松市を中心に安達郡内の町村の協力のもとに準備がすすめられ、二千三百名を越える参加者で盛会に開かれた。

一日目は、岳温泉の旅館を会場にして、六つの分科会に分れて研究討論が行われた。各会場とも雨にもかかわらず多数の参加者であふれた。また

第34回福島県PTA研究会 二本松大会 盛會裡に終わる

「いじめ」の問題がマスコミに報道されている時だけに、テレビ局や新聞社が取材にきて、「いじめ」の分科会はどこで「すか」という質問も出るなど関心の深さを示していた。

二日目は、会場を二本松市文化センターに移し、開会式行事、全体会、講演、アトラクシ

「いじめ」の問題がマスコミに報道されている時だけに、テレビ局や新聞社が取材にきて、「いじめ」の分科会はどこで「すか」という質問も出るなど関心の深さを示していた。

二日目は、会場を二本松市文化センターに移し、開会式行事、全体会、講演、アトラクシ



- 「各地区前事務局長」
- 松井和夫 丹治 勇
 - 大橋睦也 渡部 博
 - 内山邦夫 高坂啓作
 - 不破敬也 田崎富雄
 - 西牧宏樹 大竹修一
 - 栗城 讓 白井恒寿
 - 横山茂男 小林光一
 - 佐藤老松
- 「表彰状」
- 福島市立渡利中PTA
 - 同市立庭坂小PTA
 - 同市立岡山小PTA
 - 同市立森合小PTA
 - 同市立吾妻中PTA
 - 梁川町立堰本小PTA
 - 靈山町立泉原小PTA
 - 二本松市立二本松北小PTA
 - 同市立岳下小PTA
- 本宮町立五百川小PTA
 - 安達町立渋川小PTA
 - 郡山市立郡山第五中PTA
 - 同市立御館小PTA
 - 同市立喜久田中PTA
 - 同市立三穂田中PTA
 - 同市立大槻小PTA
 - 長沼町立長沼東小PTA
 - 天栄町立湯本小PTA
 - 古殿町立宮本小PTA
 - 浅川町立山白石小PTA
 - 船引町立桐山小PTA
 - 大越町立上大越小PTA
 - 小野町立浮金小中PTA
 - 東村立小野田小PTA
 - 会津若松市立城北小PTA
 - 同市立城西小PTA
 - 同市立神指小PTA
 - 同市立第一中PTA
 - 猪苗代町立千里小PTA
 - 坂下町立第一中PTA
 - 田島町立荒海小PTA
 - いわき市立平第一小PTA
 - 同市立平第六小PTA
 - 同市立小名浜西小PTA
 - 同市立藤原小PTA
 - 同市立勿来第三小PTA
 - 同市立久之浜中PTA
 - 同市立植田中PTA
 - 浪江町立浪江中PTA
 - 川内村立川内中PTA
 - 飯館村立草野小PTA
 - 原町市立高平小PTA
 - 同市立原町第二小PTA
 - 鹿島町立鹿島小PTA
 - ほか個人 一〇三名

P.T.A. 会報

53-5 内会館八所印刷
 53-1 庄印刷所
 田部井孔熊野
 字少PTA 泉字
 岩青P国泉市
 黒島県人刷
 福島市
 発行印刷
 電話57-1071

輝く受賞者

- 「感謝状」
- 「県連P前副会長」
- 大谷恒雄 吉田稔充
 - 鈴木健一
- 「県連P前理事」
- 伊藤寿彦 大原弘道
 - 薄井勝利 相楽一重
 - 中村佐平治 斎藤浩一
 - 室井絨一 天野淳乘
 - 松本定吉 大堀文宏
 - 大庭傳衛 相原重雄
- 「県連P前事務局員」
- 立花和夫 吉田悦郎

大会分科会報告

第一分科会

魅力あるPTA活動を推進するために、組織、運営のあり方をどのようにするかを話し合った。

提言では、若松一中の三校P交歓会、川俣小のAの活性化を図るための改正、赤沢小の年間活動計画が紹介された。

会員の参加を活発にするために、子どもを別室で活動させ親と下校させたり、夜担任を中心に懇談会を持つたり「いじめ」の問題を特別委員会を設

定して取り組んだ例がだされた。子どもを含めて三者一体となつた事業実施が強調された。



化を図り、役員自身が楽しく仕事ができるように、会報は、情報や課題の提示を多くするなど助言があつた。

猪俣先生からは、PTAの活性化を図るためにリーダー研修会参加を多くし、伝講により研修内容を広めたり、なり手のないリーダーについては運営を工夫して忙しくてもできるようにする。また緊急のPTAの課題を取り上げたり、自主的な計画により本音で語り合

えるようにする。規約の見直しも大切である。

第二分科会

これからの時代に対応するPTAの研修活動をどのようにすすめたらよいか。提言では、PTA活動を長い生涯の一つの

時点と考え、この時期に将来を見通し、目ざめ、準備すること。現実の子供の姿を正しく理解し、学校の指導内容を知つて健全育成に寄与する。また広報は、学校と家庭の共通理解を深めるもので、会員のさまざまな声が反映できるようにする。

討論では、生涯教育におけるPTAの役割として、家庭、社会、学校の総合としてとらえる。研修活動は年度はじめに重点を決める。広報も目玉になる企画を考えるなどの意見があつた。

佐々木、齋藤の各先生からPTA活動についての助言指導があつた。

- (1)生涯教育の立場から子どもの教育を考える。
- 自己教育力・発達課題
- 社会参加・少年団体
- (2)子どもの教育のためにPTAはどう対応するか。
- 学習社会の推進など。



(3)会員自身のためにどう対応するか。

• 生涯学習の実践・高齢化社会への対応など。これらの活動を推進するために、研修計画の重点化を図ることが強調された。

• 研修の目的をはっきり年度のビジョンをもつて内容を決める。

• 学校や子どもの理解は学年PTAから地域のPTA活動の中核となつて活動するようにしたい。

• 広報では、会員の関心の深いことを掘りさげて特集することが望まれる。

第三分科会

心豊かでたくましい子どもを育てる家庭教育をどのようにすすめたらよいかを話し合った。

提言では、家庭教育についての組織をつくり、活動目標をもつて実践している例や親子読書、生活点検表などによって、子どもの基本的生活習慣を身につけさせている例

また、地域ぐるみで家庭教育に取り組み、日常生活行動を検討し、良い習慣化の実践が報告された。

討論では、公民館、スポーツ少年団等と協力し地域活動を活発にしている状況が報告された。

親子読書については、小学校一、二年生の親を対象に読書への意欲づけを行つて成果をあげた例

あいさつ道路、あいさつ駅、家庭でのおはよう、おやすみなさいの励行などについて報告された。

山倉、神野藤両先生の助言では、子どもの基本的な生活習慣を形成するために、親・教師など、それぞれの機能を認識してすすめること。

• 悪の誘惑への抵抗力をどう育成するか考えたい。

• 思いやりの心を育成し合うことがある。相手の痛みのわかる子を育てること。生きる喜びのある家庭をつくりたい。



二本松大会

裏方役員に敬礼

県連P事務局長
長井七郎

菊香の歴史と教育の町で開催された二本松大会で開催された二本松大会で密な計画と、ゆきとどいた役員らの活動、そして充実した大会内容は、満足の笑みを浮べて帰る参加者の姿によくあらわれていた。本当に立派だった。

て誘導、そこには、役員としての責任、参加者への奉仕、役員らのチームワーク、大会を成功させるための私心を忘れた行動であった。頭が下った。

幾世橋小PTA会長
大沼 治

PTA会長として、県P研究大会に参加して、連続八年目を迎えました

二本松大会に参加して

の活動を

功させ
た一つ
に、裏
方役員
の活動
をみた。

第一日目は、予想もしなかつたどしゃぶりの大雨、その中で、参加者を迎えるあたたくもありません。声を張りあげての自動車の誘導、ご苦労様のあいさつは、参加者をして慰めてくれた。そしてその夜、第二日目の駐車場に

が、私も七年前には双葉大会の実行委員の一人として、分科会の一責任者でありました。

本年度もいつもながらの盛大な大会であったと思ひ、開催地実行委員会の皆様の努力に敬意を表したいと思ひます。

子供達の育成に努めることが大切だと思つて帰ってきました。

若松二中副会長
佐々木久子

ほんとの空の下、二本松市で「あすをないう心豊かでたくましい子どもの育成をめざすPTA活動の推進」をテーマに各分科会場では熱心な研究討議が行なわれました。全員が一体となり青少年の健全な育成を願



家庭、学校、地域社会が連携し子どもの健全な成長のための望ましい教育環境づくりを努力していることがひしひしと感じられました。私はこの大会でこれからのPTAが果たすべき役割を確認しPTA活動の必要性を痛

大会事務局から

二本松大会に参加していただきました会員の皆さま、研究大会はいかがでしたでしょうか。県教育庁はじめ県連Pの役員の方々のご指導のもとに早くから準備をすすめることができ、お蔭さまで二、三〇〇名を越える方々が参加されました。一日目の分科会では、会場に入りきれずご不便をおかけしました。大会事務局では、収容能力の最大限の会場でした。

今大会では、講師を誰にするか、駐車場をどのように確保するかが問題でした。幸にも渡辺重夫氏のお世話で堺屋太一氏に決まりほつとしたものでした。講演は、豊かな体験を基にした話で学校現場にとつては敵いものでした。子どもたちが敏感に感じとつている人間の生き方について、親も教師も考え直す必要があるようです。何でも出きる万能人から、何か一つできる子どもを認め伸ばしていく教育をしてい

くことが大事だと思ひました。

毎年立派な大会要項が配られているので、本市で安くて美しい要項ができるか心配でした。二本松南小が中心となつて編集し入札したところ、予想以上に格安でした。二本松市や郡内の町村を紹介できるめづらしい写真も載りました。地元の人たちが認識をあらたにしました。

本市は、菊人形展やお祭、それに岳温泉をひかえている観光の町です。おいでいただいた方々に喜んでいただこうと市当局はじめ、接待を受けもつた北小の会員は、自宅から接待用具を持参しての活動でした。雨の中の駐車場の整理も、東和町からもかけつけこれにあたりました。

大会全体の持ち方について昨年からご指導いただいた県北教育事務所の佐々木十志春先生、県連P事務局の永井七郎先生それに、大会の基本線を計画してくださつた下郷町南小鈴木茂校長先生にお礼申し上げます。

文責(高橋)

記念講演

「教育—峠をこえる視点」

講師 堺屋太一先生(作家・評論家)

今、日本の教育は、世界最高である。明治以来日本は教育大国であった。形のあるものは遅れていたがソフトウェアでは世界を上まわっていた。

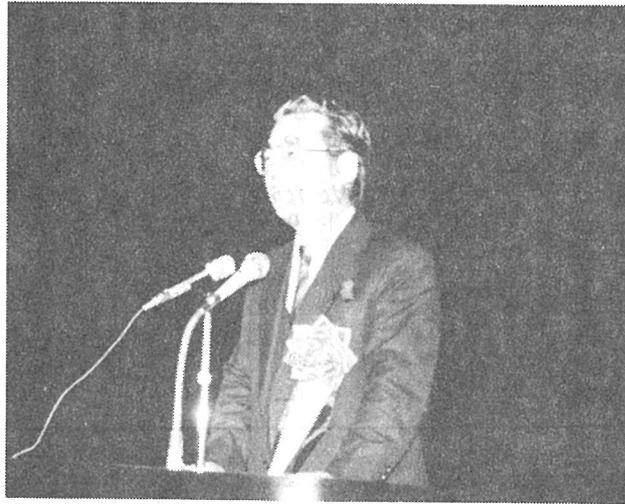
戦後、豊かになった分すべて教育にまわった。それが高度経済成長をもたらしした。

日本は、世界一の貿易国でもある。製作工程の技術者のレベルが高いから良い製品ができる。新しい技術者を育てたためである。

今日の「いじめ」や受験問題も教育を重視しているが故にできた。戦前は複数の進学コースで戦後は東大を中心にピラミッド型である。

高度経済成長期には、石油製品がたくさんできた。中東の大油田の発見により、日本の経済も急成長し、資源集約型の工業が最も栄えたのである。鉄、石油コンビナート、造船である。飛行機など

人手を使う機械は発展しなかった。素材をつくる臨海工業が発達した。物が豊かになると人はたくさん使う美意識をもつようになる。倫理感も変わった。資源エネルギー消費時代となった。そうなる、大量生産、オートメーションと全国的に物や考えが規格化した。石油文明の間に個性がなくなっていく。教育も合わせて個性のないものが求められた。どの教科もできる中堅技術者が育った。石油危機以後、資源エネルギーをたくさん使うことは良いことかという



疑問がでてきた。五年前である。個性が重じられるようになった。多様化の企業が伸び、素材産業が不況になった。従って型にはまった人間より、個人的な人間が必要になった。このことを今の子どもたちは非常に敏感に知っ

に個性的な学校があった。社会の変化に対応して自由化の方向に変わっていくことと思われる。学校がすべてではない。日本は、あらゆる面で平等である。どの大学を出ても初任給は、ほぼ同じである。このような例は外国にはない。

人気のある職業も三十年と続いたことはない。石炭・映画・石油・鉄鋼と変わった。昭和十年頃は軍人であった。その先の大正時代は、船会社であった。いつの時代も、一番いいとき就職するとだめである。今人気のあるエレクトロニクスやお医者さんも変わるだろう。

受験戦争の道だけがよいものではない。ではどうするか。子どものすきなことをさせなさい。何が自分に合っているか、自分に有利だと思おうとすきだと錯覚する。

子どもにも進路を選ばせること、そういう個性を伸ばしていくことが大切である。これからは、社会も多様化する。教育もまた個性化、多様化の道が求められる。これが峠をこえる教育である。

戦前には、日本でもトットちゃんの学校のよう

PTAの果す今日的役割を確かめよう

第十七回東北PTA研究大会

山形県上市市で開催される。

第十七回東北PTA研究大会は、去る九月十三日・十四日の両日山形県上市市で開催された。

各県から千九百余人の参加者を迎えて、上市市南小学校・同市市民会館を中心会場とし、「PTAの果す今日の役割を確かめ、学習し実践するPTA活動を積極的にすすめるよう」の主題のもとに討議が展開された。(本県からは92名が参加)

九月半ばとはいいい、今年度は例年にならない暑い日であった。しかし、山形県連P・上市市PTA会のち密な計画と、ゆきとどいた接待は、遠来の参加者に快い満足感を与えた。

第一日午後、開会行事、分科会・第二日午前九時より全体会・アトラクション・記念講演(講師高野悦子氏)・閉会行事が行なわれ、盛会の裡に終了した。

本県からは、国井会長、吉田・鈴木・西条各副会長、塚本氏(助言者)、和合氏(提言者)が大会役員として活躍された。



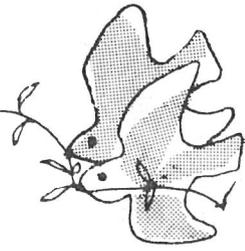
＜伊達＞

血の通ったPTAにするために

伊達町立伊達中学校PTA

伊達中学校のPTA会員は、生徒の健全な成長を援助するために、よい親よい教師になろうという成人教育団体であることを認識し、常に関係団体との連絡はもとより親自身のこと、父母と教師が望み合うことを協議し企画し、着実に実践にうつし活動をしてきた歴史があります。

特別私達のPTAが他の学校と比べて特筆する活動はありませんが、常に関心をもって参加していただくことを基本にしています。学級懇談会、学年集会、全体集会を中心に学校行事との関連性を考えて行事予定の整理が大切なことと思います。他の団体の実践の記録を参考にすることは大切なことの一つです。



部活動を含めての親の参加、先生の熱意ある放課後の指導、生徒達の姿を観て、学校が明るい、生徒達の礼儀が正しい、学校がきれいだ等

ですが、すぐに自校の活動に組み入れようとする無理が生じることがあります。研修会等に参加し、また県北教育事務所の指導の先生から教わった基本的な団体運営の基本と、私達の父母と教師の会は、毎年同じ行事を同じ時期に計画、実践してその内容の充実をはかっています。他の団体との共催、地域住民の皆さんへの協力要請、父母の参加等々、一つの事業計画を遂行するために、成人教育団体としてPTA役員だけの運営でなく会員の参加と実践の姿が生徒にどう映っていくのかを考えます。人間の生活は一人では生活できず、互いに協力しながら生活を営む姿を私達親はもとより生徒達にも機会ある毎に間接的、直接的に多くの場をもつことに努力をしています。これが私達のPTAでは特筆されることの一つです。

特色あるPTA活動

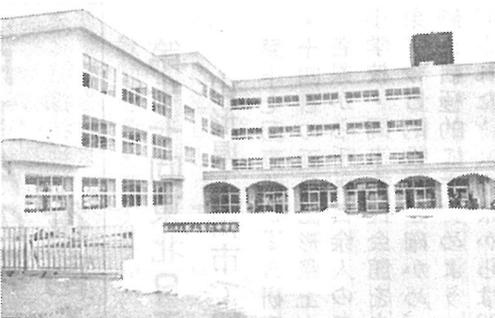
＜郡山＞

会員の連帯を深め 向上をめざす実践活動

郡山市立郡山第六中学校PTA

本校は、福島県のほぼ中央にあつて東は阿武隈山地にはいり西は奥羽山脈を横断して猪苗代湖岸に接し北は秀峰安達太良山頂に達している。市の中心部より西に約2km、49号国道沿いに位置している。

近年高層住宅、個人一般住宅等著しく急造されそれにともなつて生徒数も急激に増加し一六〇〇名を数える過大規模である。したがってここ十年間毎年の様に校舎の増改築及び校庭の整備拡張、プールの新設が行われた。生徒数の増加に追いつけず教育環境及び教材設備も不十分であった。また学区も富田町、桑野小山田地区、大槻町、片平町、喜久田町(60年3月完成新校舎正門)



発展向上をはかる。 ◎年次計画による環境の整備と浄化、緑化推進と花壇整備、花いっぱい運動参加と奉仕活動 ◎意識高揚のため広報活動の強化、「広報けやき」を年三回発行のほかPTAだより、六中だより、学年だより、学級通信等随時発行し、学校の教育活動、本会PTA活動を周知会員の啓蒙連携に努めている。

◎会員の参加する活動 学習するPTAから実践するPTAと前進するため、会員研修の充実をはかっている。教育講演会(年間四回)の実施、先進校視察の研修旅行。 ◎子どもの幸福を願う健全育成をはかるため、通年の補導活動を実施し、地域社会との提携と交流、信頼関係の絆をつくっている、また方部懇談会に積極的に参加して、意見の交換情報提供を行う、親子で汗を流す奉仕活動、本音で語り合う対話集会を実施して、内面の理解を深める。また親睦のため気軽に参加できる、スポーツレクを行っている。

